

第1回 市場小学校第二方面校開校準備部会会議録	
日 時	平成28年1月28日(木) 19時～20時30分
開 催 場 所	市場小学校 図工室
出 席 者 (22名)	佐藤部会長、武藤副部会長、森田委員、大伴委員、神藏委員、岸委員、村田委員、丸山委員、佐野委員、谷委員、藪田委員、上遠野委員、菅野委員、横田委員、貴志委員、秋本委員、益子委員、川端委員、渡辺委員、室井委員、益田委員、青木委員
欠 席 者 (1名)	畑委員
開 催 形 態	公開(傍聴者0人)
議 題	1 市場小学校第二方面校の概要について 2 通学区域案について
決 定 事 項	1 事務局から提示された、市場小学校第二方面校の通学区域案について、各所属団体に持ち帰り、次回の部会で各所属団体から出た意見をもとに議論する。
議 事	<p>1 市場小学校第二方面校の概要について</p> <p>(事務局)：市場小学校第二方面校の概要について説明。 (委員)：意見なし</p> <p>2 通学区域案について</p> <p>(事務局)：市場小学校第二方面校の通学区域案について説明。 (委員)：元宮二丁目全部と一丁目の一部といったような学区の割り方では、子ども育成会や町内活動は非常にやりづらくなる。せめて元宮全部をひとつの学校に行かせてほしい。少なくとも、この学区案には反対だ。</p> <p>(事務局)：学区域については、基本的には学校の周囲にお住まいの方をどのように区分けするのがその地域性からはよいのか、今回の場合については、東海道線や横須賀線の線路といった大きく分けられているところと、交通量の多い道路を境に考えたところだ。地域のつながりというところについては非常に重要だと認識しているので、そこも含めてこの場で検討していただければと思っている。</p> <p>(委員)：市場下町、市場西中町、市場東中町、市場上町は第二方面校へ行くとなると、現市場小と比べると非常に遠くなるので、そこは検討してもらいたい。</p> <p>(委員)：市場下町の子どもたちは、今は20分かけて跨線橋を越えて市場小に通っていて、第二方面校となるとそこをさらに歩いていくことになるので、30分はかかるだろう。検討委員会ということなので、これから話し合いをしていいところで落ち着いてもらえればと思</p>

	<p>う。</p> <p>(委員) : 元宮ポンプ所の敷地に新しい学校を建てるということは決定したということか。もう少し他に考える余地があるのではないか。</p> <p>(事務局) : 現在の市場小の児童数の推移では、もう一つ学校が必要であり、その場所については、元宮ポンプ所の敷地にするということで、市の方針は決定しているところだ。従って、本部会ではそれが前提でどのような学校をつくっていくか、学区をどうするかを議論いただければと考えている。</p> <p>(委員) : 部会でこの学区案を示す前に、他の案についても考えたのか。</p> <p>(事務局) : 学区区域案については、教育委員会で多くのシミュレーションをした中で、町内会のつながりや市場小と第二方面校両方の学校の規模を総合的に勘案し、本日ひとつ案をお示しするという形になった。</p> <p>(委員) : 3・4年生が新しい校舎に行き、5年生になったらまた市場小に戻ってくるというようなことは考えられないだろうか。子どもの立場に立ったら、やはり市場小で卒業したいというのが子どもの気持ちだと思う。</p> <p>(委員) : この案でいけば、分校ではなく、あくまでも一つの学校として運営することになる。例えば5年生と6年生だけ新しい校舎に行って、その他の学年はこれまで通りということは検討できないか。同じ地域の子どもは、まとまって同じ学校に通えた方が、大人になったときに、横のつながりとかを考えると望ましい。</p> <p>(委員) : 市場の地区は、二つの連合で分かれていたとしてもオール市場として地域の気持ちは一つである。そのため、10年間の限定で学校を分けるということは難しいと感じている。学校運営の面で言えば、この規模を一つの学校で運営するというのは大変厳しさがあるが、その学校運営の厳しさと同じように、地域の皆様は、気持ちの面で厳しさがあると思っている。市場小と第二方面校両方の合計学級数は、分校にするよりも、学区により2校に分けた方が増える。そうすると、職員の人数も増えて、子どもたち一人ひとりに手をかけることができる。学習環境を考えれば、学区により2校に分けた方が絶対に学習環境はよくなると思われるが、10年間で学校がなくなることや地域のまとまりを考えたときに、どちらを取るか、地域の思いも考えないといけない。</p> <p>(委員) : この先の学校はどうなるか、親は非常に関心が強い。そういった中で、学校が2つできることに賛成する声はあまり聞こえてこない。140周年を超えて、次は150周年を目指すこの伝統ある市場小は、1つのままでいきたい。どこかの2学年だけが新しい校舎に行くような検討はできないか。市場小は、学校と地域とPTAが一つ</p>
--	--

	<p>にまとまっている。市場小PTAはみんなで子どもを守っていこうという意思がある。先代からのその引き継いだ意思も含めて、PTA組織はこれまで通りで存続させたい。</p> <p>(委員): 市場小は地域と関係を密にして校外の活動や行事を行っていて、その地域のこどもは地域で育てているものがある。今の市場小だけでは難しいという物理的な課題があることはわかるが、その区域割りについては、地域のつながりがあるので、もう少し考える必要がある。</p> <p>(委員): 条例や規則といった観点から、分校という選択肢は実際にあるのか。</p> <p>(事務局): 申し訳ないが、この場でできるできないという明確なお返事ができない。法的な解釈や裏付けなどは、第2回の部会で説明する。</p> <p>(副部長): 分校にした時とそうでないときの教員の人数などの資料も欲しい。副校長は2人置けるとのことだが、校長は1人なので、行き来しなければならないなどの課題もある。</p> <p>(委員): 分校には反対だ。1年生から6年生までが同じ学び舎にいる縦の関係が大切。</p> <p>(事務局): 第2回の部会では様々なシミュレーション等をお示ししたい。学校運営の難しさもあると思うので、その部分をしっかり整理するので、ご議論いただければと思っている。</p> <p>(部長): 今回、事務局から提示された通学区域案を、各委員の所属団体に持ち帰って検討してください。その検討結果を元に、次回詳しく議論します。</p>
<p>資料 ・ 特記事項</p>	<p>1 資料</p> <p>(1) 次第</p> <p>(2) 委員名簿</p> <p>(3) 席次表</p> <p>(4) 運営要領</p> <p>(5) 市場小学校第二方面校概要</p> <p>(6) 通学区域(案)</p> <p>2 参考資料</p> <p>(1) 横浜市学校規模適正化等検討委員会条例</p> <p>(2) 傍聴要領</p> <p>3 特記事項</p> <p>今回は、3月8日(火)19時から公開により開催予定。開催場所は、市場小学校。</p>